

都市社会の改革者としての Duncan Uncas Middleton

肴 倉 宏

Duncan Uncas Middleton As An Urban Reformer

Hiroshi Sakanakura

抄 録

光と闇は、*The Prairie* を構成する重要な要素であるだけでなく作品のテーマを支える重要な意味も与えられている。光と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。Natty Bumppo、Ishmael Bush、Paul Hoverそして Obed Battius は、それぞれ社会の発展段階とその社会のエートスを象徴的に示している。Duncan Uncas Middleton が *The Prairie* の舞台に登場するまでにアメリカは、急速な都市化と世俗化を経験している。Middleton は、民主主義とキリスト教を通して世俗都市を再生させようと試みる。

キーワード：ジェームズ・フェニモア・クーパー、「大草原」、ダンカン・アンカス・ミドルトン、キリスト教、民主主義

(2001年8月25日 受理)

Abstract

The contrast between light and darkness constitutes both structural and thematic frames of *The Prairie*. Light symbolizes good while darkness symbolizes evil. Natty Bumppo, Ishmael Bush, Paul Hover and Obed Battius symbolize stages of social development and the ethos of society which they symbolize. America has undergone a rapid urbanization and secularization before Duncan Uncas Middleton appears on the stage of *The Prairie*. Middleton tries to reform a secular city through democracy and Christianity.

Key words: James Fenimore Cooper, *The Prairie*, Duncan Uncas Middleton, Christianity, democracy

(Received August 25, 2001)

James Fenimore Cooper の *The Prairie* (1827) に描かれた Duncan Uncas Middleton は、物語の第10章から登場している。第10章から登場した Middleton を光と闇から構成された *The Prairie* の舞台の中で捉え直してみると、Middleton は象徴的な意味を与えられた新しい人間像として浮かび上がってくる。Middleton は、メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活を信じる信仰を通して救いを与えられた人物として描かれている。⁽¹⁾ しかし *The Prairie* における Middleton の意味は、救いを得た人物であることに尽きてしまう訳ではない。Middleton が第10章で登場するまでに Natty Bumppo, Ishmael Bush, Paul Hover そして Obed Battius が登場している。これら一群の登場人物たちの最後に Middleton が登場しているのである。Middleton が登場するまでの一群の登場人物たちを光と闇から構成された *The Prairie* の舞台の中で捉え直してみると、Duncan Uncas Middleton のもう一つの面が浮かび上がってくるように思えるのである。Middleton 登場までの人物群を光と闇から構成された *The Prairie* の舞台の中で捉え直してみると、Middleton は救いを得た人物であるだけでなく象徴的な意味を与えられた新しい人間像として浮かび上がってくるように思えるのである。そして作品を構成する舞台は、重要な意味を持つてくるように思えるのである。

光は、作品 *The Prairie* の舞台を構成する重要な要素となっている。Cooper は、物語の第1章と最終章の第34章で夜の闇が訪れる直前に燃えるように輝いている夕日を描いた。このようにして、彼は *The Prairie* の物語を光の枠組の中に置いているのである。しかし、この作品で光が果たす役割は、作品を構成する要素として重要であるだけでない。それは、作品のテーマを支える重要な意味をも与えられているのである。Cooper は、夕日に示される光が象徴的な意味を持っていることを示そうとしたのである。第1章で Cooper は、夕日の場面を次のように描いている。

The sun had fallen below the crest of the nearest wave of the Prairie, leaving the usual rich and glowing train on its track. In the centre of this flood of fiery light a human form appeared, drawn against the gilded background, as distinctly, and seemingly as palpable, as though it would come within the grasp of any extended hand. The figure was colossal; the attitude musing and melancholy, and the situation directly in the route of the travellers. But embedded, as it was, in its setting of garish light, it was impossible to distinguish its just proportions or true character. (14-15) ⁽²⁾

Natty Bumppo は、小高い丘の上にとって燃えるように輝いている夕日を満身に浴びている。この場面にやってきた Ishmael Bush は、Natty Bumppo を照らし出している夕日の背後に自然現象を超えた宗教的な意味を読み取ったのであろうか、一瞬、“superstitious awe” (15) に打たれ立ち止まってしまうのである。Cooper の作品における光の使い方に関心を寄せている Donald A. Ringe は、*The Prairie* の冒頭の夕日の場面に注目して “the light... surrounds the trapper with a halo of light, and, in effect, almost sanctifies him.” と述べている。⁽³⁾ 冒頭の夕日は、宗教的な意味が込められていると Ringe は指摘しているのである。

光に与えられた象徴的な意味は、最終章の第34章でさらに強調されている。死を目前に

している Natty Bumppo が、Duncan Uncas Middleton, Paul Hover, Pawnee 族の Hard-Heart たちに囲まれて夕日を見つめている。Cooper は、その様子を次のように描いている。

The trapper had remained nearly motionless for an hour. His eyes, alone, had occasionally opened and shut. When opened his gaze seemed fastened on the clouds which hung around the western horizon, reflecting the bright colours and giving form and loveliness to the glorious tints of an American sunset. The hour—the calm beauty of the season—the occasion all conspired to fill the spectators with solemn awe. (385)

夕日が放つ光は、ここでは、Natty Bumppo をはじめとして夕日を見つめているものたちの心に畏敬の念を呼び起こしている。そして、それから間もなく、Natty Bumppo は両側を支えられながら立ち上がり、“with a fine military elevation of the head, and with a voice that might be heard in every part of that numerous assembly” (385) と描かれているように姿勢をただし大きな声で “Here!” (385) と応答している。夕日に示された光は、人間の全身全霊を持って応答しなければならない神的な存在を象徴的に示しているのである。

Cooper は、*The Prairie* の第 1 章と最終章で栄光に輝く夕日を描いた。そうすることによって、彼はこの作品を包む枠組みを作り上げた。しかも、作品を包む枠としての光は、夕日が織り成す色彩的な美しさを強調するためではなく、明らかに神的な意味を帯びる象徴性を与えられているのである。

The Prairie の舞台を構成するもう一つの重要な要素は、闇なのである。Cooper は、物語の冒頭の夕日の場面に続いて、すなわち第 1 章後半から第 6 章にかけて闇の場面を描いた。闇は、光と同様に作品のテーマを支える重要な意味を与えられている。Cooper は、闇に与えられている意味を Siouxs 族を通して示している。“the Ishmaelites of the American deserts” (40) と描かれている Siouxs 族は、Natty Bumppo に “the miscreants!” (37) や “the thieves” (38) と言われている。彼等は、倫理的に腐敗している連中なのである。Cooper は、夜陰に紛れて獲物を求めて徘徊している Siouxs 族を “A band of beings, who resembled demons rather than men sporting in their nightly revels across the bleak plain” (37) と述べている。Siouxs 族は、人間というより悪魔に似ているというのである。このような連中を包み隠す闇は、悪の跳梁を許す象徴的な意味を与えられているのである。

闇に与えられている意味は、Siouxs 族の族長 Mahtoree を通して一層強調されている。Cooper は、Mahtoree を描くとき蛇のイメージをふんだんに用いている。たとえば、略奪を企む Mahtoree が Ishmael Bush 一家のキャンプに忍び込む様子は、次のように描かれている。

The progress of Mahtoree was now slow, and to one less accustomed to such a species of exercise, it would have proved painfully laborious. But the advance of the wily snake itself is not more certain or noiseless, than was his approach. (50)

Mahtoree は、ずる賢い蛇が音もたてず確実に獲物に近づくよりも巧妙に Ishmael のキャンプに忍び込むのだ。彼は、Ishmael Bush 一家の一人一人の顔を覗き込み寝静まっていることを確かめたうえで、キャンプの中を歩き回る。Cooper は、Mahtoree の様子を “he

stalked through the encampment, like the master of evil, seeking whom and what he should first devote to fell purposes.”(53)と描いている。残忍な目的を遂げるための犠牲者を探している Mahtoree は、悪の化身なのである。Mahtoree の暗躍を許す闇は、倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する象徴的な意味を与えられているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。彼は、象徴的な意味を帯びる光を物語の枠組として設定している。神的な意味を与えられた光の枠組は、その中に倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する恐ろしい闇を包み込んでしまうものなのである。このように Cooper が *The Prairie* の冒頭で見せる光の舞台は、これから繰り広げられる事柄に関する問題の中心が、光か闇に深いかかわりを持つ問題であることを予表しているのである。冒頭の光の場面は、光が象徴的に表わすものを信じるか、それとも闇の世界にとどまるかという倫理的な問題が、*The Prairie* の中心課題であることを暗示しているのである。

象徴的な意味を与えられた光と闇から構成されている *The Prairie* の舞台に登場する人物の中でまず重要なのは、Natty Bumppo である。彼は、80歳をはるかに超えた罫師として物語の第1章から登場する。Natty Bumppo は、彼を獵師とみなす Ishmael Bush に対して “you are mistaken, friend, in calling me a hunter ; I am nothing better than a trapper.” (22) と言っている。彼は、*The Prairie* では獵師ではなく罫師であることにこだわる。罫師という Natty Bumppo の職業は、彼の個人的な職業を表わしているだけではない。それは、象徴的な意味をも与えられている。Natty Bumppo の罫師という職業は、社会の発展段階の最初の段階である狩猟採取の社会を象徴的に示している。実際、Natty Bumppo は、狩猟の目的を Ishmael Bush に “At my time of life, food and clothing be all that is needed, and I have little occasion for what you call plunder, unless it may be, now and then, to barter for a horn of powder or a bar of lead.”(22) と言っている。彼は、食べるためと着るために必要な獲物を捕れば十分だという。余分に捕ったとしても、それは火薬や弾丸などの生活必需品と交換するためなのである。彼は、毛皮を多量に売り売って儲けることを考えていないのである。このような Natty Bumppo は、質素で儉約に徹した生活をしている。Cooper は、Natty Bumppo の服装や持ち物を “His dress was chiefly of skins, worn with the hair to the weather ; a pouch and horn were suspended from his shoulders ; and he leaned on a rifle of uncommon length, but which, like its owner exhibited the wear of long and hard service.”(16) と描写している。Natty Bumppo は、毛が擦り切れるまで服を着ているし、鉄砲も摩耗が激しい。彼は、余分なものを持たず持っているものは最後まで使い切るのである。Natty Bumppo の職業に象徴的に示された狩猟採取の社会は、質素で儉約を旨とした自給自足の社会である。

Natty Bumppo に具現された狩猟採取の社会を支えるエートスは、彼の光と闇に対する姿勢に示されている。すでに述べたように Natty Bumppo は、第1章で象徴的な意味を与えられた光を満身に浴びて登場しているし最終章の第34章で神的な意味を与えられた光に “Here!”(385) と言って応答している。彼は、光の象徴性を理解し光あるうち光のなかを歩く人物なのである。光の象徴性を理解している Natty Bumppo は、闇の象徴性も理解して

いる。実際、彼は、闇の中で Paul Hover に “evil is nigh” (36) と警告している。彼は、闇が悪の跳梁を許すものであることを認識している。Natty Bumppo は、光と闇の象徴性を理解しているだけでない。彼は、神的な光について証しをする人物としても描かれている。そのことは、Natty Bumppo の罟師という職業を通して示されている。Natty Bumppo は、Paul Hover に対して罟師の職業について次のように述べている。

There is little call for handicrafts in this region...the art of taking the creatur's of God, in traps and nets is one that needs more cunning than manhood; and yet am I brought to practice it in my age! (31)

Natty Bumppo は、神の被造物を捕えるのには勇気より知識が必要だという。彼は、年を重ねてきて初めて神の被造物を捕えられるようになったという。実際、*The Prairie* の Natty Bumppo は、メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者であるばかりでなく聖餐式の執行者としても描かれている。⁽⁴⁾ 彼は、Chingachgook と Uncas の係わりに描かれた愛する独り子を犠牲にしてまで人間を悪より救い出だそうとする神の愛、Hard-Heart の復活にみられる死からさえ生を造り出す神の豊かな創造力そして終末の接近について語り、荒野であった人々や老犬の Hector を聖餐式に招くのである。⁽⁵⁾ 彼は、神の被造物として人間と自然が平等な存在であることを認めている。さらに彼は、人間が自然に対して暖かい配慮を示す責務を負わされた存在であることも自覚している。メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活の話を通して神的な光について証をする Natty Bumppo は、神や人間そして自然との交わりを深めるキリスト教信仰を支えとしているのである。Natty Bumppo に描かれた狩猟採取の社会は、キリスト教信仰をエートスとしていた宗教的な社会なのである。

Natty Bumppo に続いて光と闇から構成されている *The Prairie* の舞台に登場するのは、Ishmael Bush 一家である。彼等は、Natty Bumppo と同様に物語の第1章から登場する。Cooper は、Kentucky 州から大草原地帯にやってきた Ishmael Bush 一家を次のように描いて読者に紹介する。

The vehicles, loaded with household goods and implements of husbandry, the few straggling sheep and cattle that were herded in the rear, and the rugged appearance and careless mien of the sturdy men who loitered at the sides of the lingering teams, united to announce a band of emigrants seeking for the Eldorado of the West. (11)

Ishmael Bush 一家は、数台の馬車に家財道具と農業に必要な道具を積んでいる。そのうえ、彼等は、馬車の後ろに羊や牛を数頭引き連れている。彼等は、西部に広がる肥沃な土地で農業や牧畜を営み生計をたてようとしている開拓者の一団なのである。このように描かれた Ishmael Bush 一家の大草原地帯への到着は、Natty Bumppo に具現された狩猟採取の社会に代わって農耕社会が大草原地帯に到来したことを象徴的に表わしている。Natty Bumppo は、Ishmael Bush 一家の到着を “musing and melancholy” (15) な思いで見つめている。彼は、開拓者の到来が自然の大規模な破壊を引き起こすことを危惧しているのである。実際、Ishmael Bush 一家は、Natty Bumppo からキャンプにふさわしい場所を聞き出

すと “they stripped a small but suitable spot of its burthen of forest, as effectually, and almost as promptly, as if a whirlwind had passed along the place.” (19)と描写されているようにあつという間に辺りに生えていた木を切り倒してしまうのである。Natty Bumppo は、Ishmael Bush 一家がキャンプを撤収した跡の “the desolation of the scene” (83)を見ながら次のように非難している。

This is man's wish, and pride, and waste, and sinfulness. He tames the beasts of the field, to feed his idle wants, and having robbed the brutes of their natural food, he teaches them to strip the 'arth of its trees, to quiet their hunger. (83)

Natty Bumppo は、自然破壊を人間の罪深い行為であると非難している。さらに彼は、Ishmael Bush のような開拓者が野獣を家畜化し野獣の食べ物を奪うと心配している。そればかりか彼は、追い詰められた野獣が生きたために木々の皮や芽を食べ自然を破壊するように仕向けてしまうとも非難する。Ishmael Bush 一家に示された農耕社会は、人間による自然の征服と大規模な改造をもたらした自然の生態系を乱し人間と自然や動物同士の対立を作り出していく社会なのである。

Ishmael Bush 一家に象徴的に示された農耕社会を支えるエートスは、Ishmael Bush の光と闇に対する態度に示されている。Ishmael の光に対する姿勢は、二台目の馬車を通して描かれている。Ishmael の二台目の馬車だけは幌がかけられている。Cooper は、二台目の馬車を “The second vehicle was covered with a top of cloth so tightly drawn, as to conceal its contents, with the nicest care.” (13)と描写している。二台目の馬車だけは、中身が見えないように細心の注意を払って幌がかけられている。Ishmael は、この幌馬車の中に Duncan Uncas Middleton の新妻 Inez を隠しているのである。彼は、Inez を身代金を取る目的で誘拐したのだ。Ishmael が Inez を幌馬車に隠していることは、神的な光から自分の倫理的腐敗を隠そうとすることなのである。神的な光から自分の倫理的腐敗を隠そうとする Ishmael Bush は、悪の跳梁を許す闇の側にいる人物なのである。このように描かれた Ishmael は、Natty Bumppo の象徴性を理解できないのである。彼は、Natty Bumppo をメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者にして聖餐式の執行者として理解できないのである。そればかりか、Ishmael は、Natty Bumppo に敵意を抱くようになる。Ishmael は、大草原地帯に着いた夜に Siouxes 族に襲撃され家畜を奪われる。彼は、Natty Bumppo が Siouxes 族の襲撃を手引きしたと疑うのである。実際、彼は、Natty Bumppo に “Old man, you have brought this tribe of red devils upon us, and tomorrow you will be sharing the booty.” (60)と言っている。Ishmael の Natty Bumppo に対する不信感をあからさまな敵意に変えていくのは、Ishmael の義弟 Abiram White である。Abiram が Natty Bumppo を “our mortal enemy” (134)と呼ぶのを聞いてその直後に長男 Asa の死体を発見すると、Ishmael は Natty Bumppo を Asa 殺しの犯人と思い込み彼に激しい敵意を抱き続ける。Natty Bumppo に敵意を露にする Ishmael は、Natty Bumppo の語るメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活の話に耳を傾けようとしないのである。ましてや Ishmael は、Natty Bumppo の執り行う荒野での聖餐式に加わることもない。彼は、最後まで悪の

跳梁する闇の世界に留まっている。Ishmael は、魂の再生を経験しない反キリスト教的な男なのである。⁽⁶⁾ Ishmael Bush 一家に示された農耕社会を支えるエートスは、キリスト教信仰に敵対的なのである。

Ishmael Bush 一家の後に光と闇から構成されている *The Prairie* の舞台に登場するのは、Paul Hover である。彼は、物語の第3章から登場する。Paul は、“the bee-hunter” (35) として描かれている。彼は、蜂蜜採取業者なのである。彼は、自分の仕事について “I keep to my calling; which pays me better, than all the fur I could sell on the other side of the big river.” (32) と Natty Bumppo に言っている。蜂蜜採取業は、猟師や罌師として毛皮をとって売るよりもはるかにお金になる商売なのである。Natty Bumppo も Paul の商売が分かると、“A bee-hunter!...It pays well in the skirts of the settlements, but I should call it doubtful trade in the more open districts.” (32) と言う。Natty Bumppo は、蜂蜜採取業は開拓地の近くでは金になるが樹木の無い大草原地帯では儲かるかどうか分からない商売だと言う。Natty Bumppo の疑いに対して Paul は、“You think a tree is wanting for a swarm to settle in! But I know differently; and so I have stretched out a few hundred miles farther west, than common, to taste your honey.” (33) と答えている。彼は、常識的に考えて不可能と思えるようなところにビジネスチャンスを見つけようとする企業家精神の旺盛な人物なのである。どんなに困難なところにも金儲けの機会を見つけようとする Paul Hover が大草原地帯に登場したことは、農耕社会に代わって商業資本主義の社会が現われたことを意味している。Paul に具現された商業資本主義の社会の特徴は、第9章の Paul と Natty Bumppo の対話を通して具体的に示されている。この章で Natty Bumppo は、荒野での食事と文明社会での食事の違いを説明しながら Paul に野牛の肉を切り分け食べさせている。ところが Paul は、Natty Bumppo の説明に耳を傾けるどころか “I tell you, trapper...that, every day while we are in this place, and they are likely to be many, I will shoot a buffaloe and you shall cook his hump!” (97) と言う。彼は、毎日一頭づつ野牛を殺してうまい肉を食べたいと言う。それを聞いた Natty Bumppo が “I cannot say that I will be a witness and a helper to the waste of killing one daily.” (97) と言って Paul を諫めると、Paul は “The devil a bit of waste shall there be, old man.” (97) と言り返す。彼は、野牛が無数にいたので少々の浪費をして何が悪いと開き直っている。Paul Hover に象徴的に示された商業資本主義の社会は、自然の大量破壊と大量消費をもたらす社会なのである。⁽⁷⁾

Paul Hover が体現する商業資本主義の社会を支えるエートスは、彼の光と闇に対する姿勢に示されている。Paul は、日中、Ishmael Bush 一家のものたちに見つからないように大草原に点在する茂みに身を隠し夜になると茂みから出て Ellen Wade と逢引する。Cooper は、夜毎逢引する Paul について “He had hovered around the moving family during the tedious period of their weary march, concealing himself by day, and seeking interviews with his betrothed, as opportunites offered...” (190) と述べている。彼は、逢引するため日中の強い光を避け夜の闇を物理的な隠れ蓑として利用している。象徴的な光を避け夜中出歩く Paul は、闇の象徴性を理解していない。彼は、倫理的な腐敗を隠し悪の跳

梁する闇の側にいる人物なのである。光と闇の象徴性を理解できない彼は、Natty Bumppo をメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者にして聖餐式の司式者として理解できないのである。彼は、Natty Bumppo を老農師でおいしい肉料理を提供する料理人とみなしている。彼は、金儲けには大いに関心を払うけれど自分の魂の救済には全く関心を示さない経済的な成功を夢見ている世俗的な若者なのである。⁽⁸⁾ Orm Overland は、Paul の職業に注目して Paul を “a forerunner of civilization” と言う。⁽⁹⁾ William P. Kelly は、Paul を社会進化の一段階を表わすものと捉え “between the primitive order of the Bush family and the refinement of Duncan Middleton” と位置づけている。⁽¹⁰⁾ しかし彼等は、Paul がキリスト教信仰に全く無関心な世俗的な若者として描かれていることに気がついていない。Paul Hover に具現された商業資本主義の社会を支えるエートスは、利潤の追求を目的とした経済合理主義を重視するけれどもキリスト教信仰に無関心になってきているのである。

Paul Hover の次に光と闇から構成されている *The Prairie* の舞台に登場するのは、Obed Battius である。彼は、第6章から登場する。Obed は、“a graduate of two universities” (123) と言われている。彼は、二つの大学を卒業しているのである。さらに彼は、“fellow of several cis-atlantic learned societies” (67) と述べられた学会に所属し “M. D.” (67) の学位を授与されている博物学者なのである。彼は、博物学にまだまだ分類されていない新種の動植物や鉱物を発見し博物学の発展に貢献しそれを通して人類を知的に向上させようとしている。実際、彼は、学問研究に命をかけている自分の思いを “all my aspirations after knowledge, as I humbly believe, are, first, for the advancement of learning, and secondly, for the benefit of my fellow-creatures.” (104) と表明している。学問や教育に命をかける Obed Battius の大草原地帯への登場は、農業や商業などの経済的な発展に支えられて学術・文化が華ひらく社会がアメリカに到来したことを物語っている。学術・文化の発展した社会の特徴は、第14章の Ishmael Bush の砦の場面を通して示されている。この場面で Obed は、Ellen や Ishmael の娘たちに知的レベルの高い講義をし彼等の知的レベルを向上させようとする。彼は、Ellen に “A compactum which is entered into, through ignorance or in duress, is null in the sight of all good moralists” (150) と言って道徳哲学者たちの契約に関する見解を披露する。さらに彼は、“by Payley, Berkeley, ay even by the immortal Binkerschoef” (151) と当時の著名な学者たちの名前を引き合いに出して契約に関する知識を伝授する。そのうえ彼は、Ishmael の娘 Hetty の聴覚神経や Phoebe の歯痛を直したことに訴え医学が苦痛を軽減することを教授する。博覧強記の Obed は、博物学や医学だけでなく法律学や道徳哲学の知識を総動員して Ellen や Ishmael の娘たちの知的レベルを高めようとする。Obed Battius に描かれた学術・文化の発展した社会は、学問諸分野に関する知識が必要とされる知識社会なのである。

Obed Battius に象徴的に示された知識社会を支えるエートスは、彼の光と闇に対する姿勢に示されている。光と闇に対する Obed 姿勢は、Ellen との対話を通して示されている。Obed は、夜に出歩く理由を Ellen に次のように説明している。

I am abroad at night, my good girl, because the earth in its diurnal revolutions, leaves the light of sun, but half the time on any given meridian, and because what I have to do, cannot be performed in twelve or fifteen consecutive hours. (68)

Obed は、地球の自転が昼と夜の交代の原因であるという。しかも博物学者としての彼の仕事は、昼だけして夜になったからといってやめる訳にいかないから夜も出歩くのだと言う。Obed は、光と闇の交代を自然科学的現象として合理的に明快に説明している。彼は、光と闇に与えられている象徴性を理解できないのである。光の象徴性を理解しないで夜中出歩く Obed は、倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する闇の側にいる人物なのである。このような彼は、Natty Bumppo をメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者にして聖餐式の司式者として理解できないのである。Obed は、Natty Bumppo を通して語られるキリスト教信仰を受け入れないのである。そればかりか Obed は、人間は知識を得て神にすらなれると豪語する。実際、彼は、Natty Bumppo に次のように言う。

Man may be degraded to the very margin of the line which separates him from the brute, by ignorance; or he may be elevated to a communion with the Great Master Spirit of All by knowledge—nay, I know not, if time and opportunity were given him, but he might become the Master of all learning, and consequently equal to the great moving principle. (180)

Obed は、無知は人間を動物のレベルに墮落させるが、逆に知識は人間をあらゆる知識の源である神に近づけると主張する。彼は、人間に与えられている理性の力によって神にすらなれると大胆に言うのである。さらに彼は、学問の発展とその成果である教育が普及すれば人間の中にある悪を取り除けると言う。実際、彼は、“if science could be fairly brought to bear on a whole species, at once, for instance, education might eradicate the evil principle.” (240) と語る。彼は、人間に与えられている理性を絶対視しているのである。⁽¹¹⁾ Obed Battius に具現された知識社会を支えるエートスは、人間を神にする自己絶対化の精神なのである。

Natty Bumppo は、狩猟採取の社会から Obed Battius に示された学術・文化が発達した知識社会までの社会の発展過程を経験してきたのである。彼は、80歳を超える老毘師として描かれていた。彼のわずか数十年の人生の中でアメリカが狩猟採取の社会から高度に発展した知識社会へと変貌する様子を Natty Bumppo は体験してきたのである。彼は、アメリカ社会の変貌ぶりを次のように語っている。

What this world of America is coming to, and where the machinations and inventions of its people are to have an end, the Lord, he only knows. I have seen in my day, the chief, who in his time, had beheld the first christian that plac'd his wicked foot in the regions of York! How much has the beauty of the wilderness been deformed in two short lives! My own eyes were first opened on the shores of the Eastern sea, and well do I remember that I tried the virtues of the first rifle I ever bore, after such a march, from the door of my father to the forest, as a stripling could make between sun and

sun, and that without offence to the rights, or prejudices, of any man who set himself up to be the owner of the beasts of the fields. Natur' then lay in its glory along the whole coast, giving a narrow stripe between the woods and the ocean to the greediness of the settlers. And where am I now! Had I the wings of an eagle, they would tire before a tenth of the distance, which separates me from that sea, could be passed; and towns, and villages, farms and high ways, churches, and school, in short all inventions and deviltries of man spread across the region! I have known the time when a few red-skins shouting along the borders, could set the Provinces in a fever, and men were to be armed, and troops were to be called to aid from a distant land, and prayers were said, and the women frightened, and few slept in quiet, because the Iroquois was on the war path, the accursed Mingo had the tomahawk in hand. How is it now. The country sends out her ships to foreign lands to wage their battles, cannon are plentier than rifle used to be, and trained soldiers are never wanting in tens of thousands, when need calls for their service. Such is the difference atween a Province and a State, my men; and I, miserable and worn out as I seem, have live'd to see it all! (250-251)

Natty Bumppo は、植民地時代のアメリカは大自然の懐に抱かれていたという。その頃は、アメリカの大西洋岸からアパラチア山脈までの狭い範囲が開拓されていただけであった。当時、鉄砲を担いで家を出るとすぐに狩りができたのである。独立して合衆国になったアメリカは、Louisiana 購入で領土的にも拡大した。その拡大した領土に町や村、農場や道路、教会や学校が作られているという。そのために自然の美しさが損なわれて狩りをするために大西洋岸から Mississippi 川を超えて大草原地帯まで足を延ばさなければならなくなったと彼は嘆いている。そのうえアメリカは、軍隊を持ち戦争のため海軍を海外に派遣するまで強力になったという。植民地時代の自然の懐に抱かれていた狩猟採取の社会から学術・文化が華ひらく知識社会への変化は、長い年月をかけて徐々に起きたものではない。アメリカ社会の変化は、Natty Bumppo の生涯の間に急速に起きた現象なのである。Natty Bumppo は、アメリカ社会の急速な都市化を経験してきたのである。

都市化した社会の特徴は、Ishmael Bush と Natty Bumppo の対話を通して具体的に描かれている。Ishmael は、一つの町や郡ができるくらいの広い土地を持っているものもいれば、骨を埋めるだけの土地さえ持たないものもいるという。彼は、豊かさの陰で人々の間の経済的な格差が拡大していることを言っているのだ。実際、Ishmael は、Natty Bumppo に次のように不満をおちまけている。

I am as rightful an owner of the land I stand on, as any governor in the States! Can you tell me, stranger, where the law or the reason, is to found, which says that one man shall have a section, or a town, or perhaps a county, to his use, and another have to beg for 'arth to make his grave in. This is not natur and I deny that it is law. That is, your legal law. (61)

Ishmael は、貧富の差が拡大していると不満を述べている。彼は、貧しい開拓農民なのである。Ishmael が kentucky 州で他人の土地を不法に占拠し彼等を追い立てようとした“the sheriff's deputy”(58)を射殺したのも貧しさと深く係わっている。Ishmael の妻 Esther は、保安官射殺について“Poverty and labor bore hard upon him especially as county officers were getting troublesome, and in a weak moment he did the wicked act.”(344)と弁護している。彼女は、貧困と農業労働の厳しさがこたえて Ishmael が犯罪を犯してしまったと弁解している。経済的に豊かになった社会の中で貧困が犯罪を生む温床になっているのである。都市化したアメリカ社会は、豊かさの陰で経済的格差が拡大し貧困が犯罪を生む暗く不安定な側面をも抱えている社会なのである。

都市化したアメリカ社会の特徴は、Ishmael Bush の服装や持ち物を通してさらに強調されている。Cooper は、第 1 章で登場した Ishmael の服装を次のように描写している。

The dress of this individual was a mixture of the coarsest vestments of a husbandman, with the leathern garments, that fashion as well as use had in some degree rendered necessary to one engaged in his present pursuits. There was, however, a singular and wild display of prodigal and ill-judged ornaments blended with his motley attire. In place of the usual deerskin belt, he wore around his body a tarnished silken sash of the most gaudy colours; the buck-horn haft of his knife was profusely decorated with plates of silver; the marten's fur of his cap was of a fineness and shadowing that a queen might covet; the buttons of his rude and soiled blanket-coat were of the glittering coinage of Mexico; the stock of his rifle was of beautiful mahogany, riveted and banded with the same precious metal, and the trinkets of no less than three worthless watches dangled from different parts of his person. In addition to the pack and the rifle which were slung at his back, together with the well-filled, and carefully guarded pouch and horn, he had carelessly cast a keen and bright wood-axe across his shoulder, sustaining the weight of the whole with as much apparent ease as if he moved, unfettered in limb, and free from incumbrance. (12)

Ishmael Bush は、貧しい開拓農民の割には趣味の悪い贅沢な飾りを身に着けている。彼は、ベルトの代わりに派手な色の絹の帯を締めている。ナイフのにぎりは銀細工がほどこされ、テンの毛皮製の帽子は女王でもほしがりそうな出来具合である。上着のボタンはメキシコ製で、鉄砲の銃床は高価なマホガニー材で仕上げられ、三個程の時計を上着につけている。彼は、開拓農民にとって不必要と思えるような高価な輸入品や贅沢品を身に着けているのである。Ishmael Bush の服装や持ち物は、Natty Bumppo の服装や持ち物と明らかに対比されている。Natty Bumppo は、毛皮の毛が擦り切れるまで着ているし鉄砲とて摩耗が激しくなるまで使っている。彼は、毘師としての生活に必要なものだけを持ち最後まで使い切るのである。Natty Bumppo は、質素で儉約に徹した生き方をしている。Natty Bumppo と比べると Ishmael は、開拓農民にとって不必要と思える品々を持っている。高価な物を身につけている Ishmael の姿は、貧しい開拓農民でさえ消費社会の影響を受けて

いることを物語っている。Ishmaelが義弟のAbiram Whiteに唆されてInezを誘拐したのは、彼がより多くの消費財を手に入れるため金を必要としたからであると思えるのである。Ishmael Bushの服装や持ち物は、商業資本主義の発達をもたらした豊かな消費生活が社会の各階層にまで浸透していることを示している。Wayne Fieldsは、Ishmael Bushの服装について次のように述べている。

Ishmael's dress would be the envy of pirate or gypse, nobleman or savage, asserting his independence from all social hierarchies by mixing deerskin and buckhorn with marten fur and mahogany. ⁽¹²⁾

Fieldsは、Ishmaelの服装があらゆる社会階層からIshmaelが独立している姿を表わしていると述べている。しかしIshmaelの服装があらゆる社会階層の影響を免れていると解釈するよりは、むしろIshmaelが消費社会にからめとられていると解釈するべきであろう。消費社会は、Ishmaelのような貧しい開拓農民をも巻き込んでいるのである。都市化したアメリカ社会は、輸入品や贅沢品があふれる消費社会であると同時に犯罪が起きる危険な社会でもある。

Natty Bumppoの体験したアメリカの急速な都市化は、自然環境を激変させ消費社会を作り出してきただけではない。アメリカの急速な都市化は、社会的な発展段階のそれぞれを支えていたエートスをも変化させてきたのである。Natty Bumppoに象徴的に示された狩猟採取の社会では、メシヤUncasとHard-Heartの死と復活を信じる信仰とメシヤの臨在を象徴的に示す聖餐式がしっかりと守られていた。狩猟採取の社会は、キリスト教信仰を中核にした宗教的な社会なのである。狩猟採取の社会では神と人間そして自然が暖かい交わりを持っていたのである。狩猟採取の社会に代わって出現した農耕社会のエートスは、Ishmael Bush一家の光と闇に対する姿勢に示されていた。Ishmaelは、象徴的な意味を与えられた光から自分の倫理的腐敗を隠そうとしていた。このようなIshmaelは、メシヤUncasとHard-Heartの死と復活を語る伝道者にして聖餐式の執行者であるNatty Bumppoに敵意を抱いていた。Ishmael Bush一家に具現された農耕社会のエートスは、反キリスト教的なのである。次に現われたPaul Hoverに象徴的に示された商業資本主義の社会のエートスは、Paulの光と闇に対する姿勢に示されていた。光の象徴性を理解できないPaulは、闇の側に属しているのである。このような彼は、Natty Bumppoの象徴性を理解できなかった。利潤の追及を目的にしているPaulは、キリスト教や個人の魂の救済に無関心であった。彼に代表される商業資本主義の社会を支えるエートスは、キリスト教信仰に無関心になってきているのである。Obed Battiusに象徴的に示された学術・文化が発達した知識社会を支えるエートスは、Obedと光と闇の係わりに示されていた。光を自然科学的現象とみなすObedは、悪の跳梁する闇の側にいる人物なのである。ObedもNatty Bumppoの象徴性を理解できなかった。そればかりか彼は、理性を与えられている人間が知識を得て神になりえると主張していた。Obed Battiusに象徴的に示された知識社会を支えるエートスは、人間を神にする自己絶対化の精神である。狩猟採取の社会から高度な知識社会への変化は、キリスト教信仰から徐々に離れていく過程でもある。Natty

Bumppo の体験したアメリカの急速な都市化は、宗教離れをともなった世俗化の過程でもある。

世俗化した社会の特徴は、Ellen Wade を通して具体的に示されている。Ellen は、Natty Bumppo に “Father!...I have no father! I had nearly said no friend.” (27) と告白している。彼女は、天涯孤独の身なのである。Ishmael Bush 一家は、孤児の Ellen を引き取り貧しいながらも “a morsel of venison” (173) を与え育ててきたのである。倫理的に腐敗堕落し粗野な Ishmael Bush 一家ではあるが、この一家には孤児の Ellen を引き取り育てる人間的な優しさは残されている。彼等と比べると経済的に豊かになった人々は、Ellen の様な社会的弱者に無関心なのである。Ellen は、Ishmael Bush 一家との別れ際に次のように言う。

You took me a fatherless, impoverished, and friendless orphan...when others, who live in what may be called affluence compared to your state, chose to forget me, and may heaven in its goodness bless you for it. The little I have done, will never pay you for that one act of kindness. I like not your manner of life ; it is different from the ways of my childhood and it is different from my wishes, still, had you not led this sweet and unoffending lady from her friends, I should never have quitted you, until you yourself had said, 'go, and the blessing of God go with you!'" (349-350)

Ellen は、貧しいながらも育ててくれた Ishmael に感謝している。同時に彼女は、豊かな人々が社会的弱者に冷淡であると非難している。Ellen の言葉は、都市化し世俗化した社会に対する痛烈な批判なのである。物質的に豊かになったけれどもキリスト教信仰に関心を持たなくなった都市社会は、相互扶助の精神を失ってきているのである。世俗化した社会は、人間関係が希薄になっている社会なのである。

世俗化した社会の特徴は、Paul Hover を通してさらに強調されている。蜂蜜採取業者の Paul は、Ellen と結婚するつもりで Ishmael Bush 一家にまわりついている。彼は、Ellen の孤児として境遇に個人的には同情している。しかし Natty Bumppo の象徴性を理解できない Paul は、Ellen に与えられている象徴的な意味を理解できないのである。彼は、Ellen を都市化し世俗化した社会の中で無視されている社会的弱者を象徴する代表として理解できないのである。彼は、Ellen との結婚を社会的弱者の救済というよりは彼の個人的な幸福を実現することとみなしている。実際、彼は、Ellen との結婚の夢を Middleton につい口を滑らせて次のように言う。

I should be the happiest fellow, between Kentuck and the Rocky Mountains, if I had a snug cabin, near some old wood that was filled with hollow trees, just such a hump every day as that for dinner ; a load of fresh straw for hives, and little El— (109)

Paul は、蜂蜜採取業を営み経済的に成功しこじんまりとした家を見て Ellen の手料理を味わえれば最高に幸せだという。彼は、経済的成功と家庭の幸福を夢に見ているのである。キリスト教信仰に無関心な若者 Paul は、世俗的な成功と幸福を求めている。世俗化した社会は、神の正義に基づいた社会正義の実現を目指すよりは個人の願望充足だけを求める社会なのである。

Natty Bumppo の経験したアメリカ社会の変化は、都市化と世俗化をともなっていた。急激な都市化は、経済的な豊かさをもたらすには高価な輸入品や贅沢品があふれるようになってきた。同時に貧富の差が拡大しそれが犯罪を引き起こす要因にもなっていた。都市化は、世俗化をもともなっている。人々は、キリスト教信仰に関心を払わなくなってきた。その結果、人間関係が希薄になり人々は個人の願望充足だけを求めるようになってきた。Natty Bumppo は、都市化と世俗化の進行するアメリカ社会の暗澹たる将来について次のように言う。

...and it will not be long afore an accursed band of choppers and loggers will be following on their heels to humble the wilderness which lies so broad and rich on the western banks of the Mississippi, and then the land will be a peopled desert from the shores of the Maine sea to the foot of the Rocky Mountains, fill'd with all the abominations and craft of man and stript of the comfort and loveliness it received from the hand of the Lord! (187-188)

Natty Bumppo は、アメリカ社会を砂漠にたとえている。アメリカ社会は、人がたくさんいたとしても人間同士の間にも何のつながりもなく生命を枯渇させていく砂漠のような社会になるだろうと Natty Bumppo は言う。都市化と世俗化の進行は、アメリカ社会そのものを解体させてしまいかねない不吉な可能性をはらんでいるのである。こうして Cooper は、Duncan Uncas Middleton が登場する社会の有様を浮かび上がらせてきたのである。Duncan Uncas Middleton は、都市化と世俗化によって生命力を失いつつある社会に登場するのである。Duncan Uncas Middleton の登場は、砂漠と化しつつある都市社会を再生させる使命を帯びていることが暗示されているのである。

Duncan Uncas Middleton が物語の第10章で光と闇から構成されている *The Prairie* の舞台に登場する。彼は、急速な都市化と世俗化をともなった社会に登場するのである。世俗都市への Middleton の登場は、都市社会を再生させることを目指している。Middleton は、都市社会を再生させる手段として民主主義を用いるのである。彼が民主主義の担い手であることは、Middleton に与えられている任命書に示されている。Middleton の差し出した任命書を見た Obed は、“What have we here!...Why, this is the sign manual of the Philosopher Jefferson! The seal of State! Countersigned, by the Minister of War! Why this is a commission, creating Duncan Uncas Middleton a Captain of Artillery.”(111) と言っている。Middleton は、第3代大統領 Jefferson によってアメリカ合衆国陸軍の砲兵大尉に任命されているのである。Jefferson は、「独立宣言書」で「われわれは、自明の真理として、すべての人は平等に造られ、造物主によって、一定の奪いがたい天賦の権利を付与され、そのなかには生命、自由および幸福の追及の含まれることを信じる。」⁽¹³⁾ とうたいあげていた。Jefferson は、アメリカの民主主義の基礎を築いたといわれている。Jefferson 大統領に砲兵大尉に任命された Middleton は、対外的にはアメリカ合衆国を外敵の侵略から守ることであり、国内的には民主主義を推進することを任務としている。こうして Middleton は、民主主義の推進を通して世俗都市を再生させようとするのである。

Middleton を担い手とした民主主義の特徴は、第31章の Middleton と Ishmael Bush の対話を通して示されている。物語の第31章は、裁判の場面である。Ishmael は、Middleton たちを前に復讐法に従って彼等を裁こうとする。Middleton は、Inez を誘拐し身代金をとろうとした Ishmael が復讐法を用いて裁こうとすることを不合理と考え、次のように抗議する。

If the evil doer is to be punished, and he that has offended none to be left to go at large, you must change situations with me, and become a prisoner instead of a Judge. (343)

Middleton は、Inez を誘拐した Ishmael でなく自分こそが Ishmael を裁く立場にあるという。Middleton の抗議に耳を傾けようとしない Ishmael は、なおも復讐法を利用して Middleton に次のように言う。

As to ourselves, young Captain, there has been wrong on both sides. If I have borne hard upon your feelings, in taking away your wife, with an honest intention of giving her back to you when the plans of that devil incarnate were answered, so have you broken into my encampment, aiding and abetting, as they have called many an honest bargain, in destroying my property. (345)

Ishmael は、Inez を誘拐したことは悪かったと反省しているように見える。しかし、彼は、Middleton の非をあげつらう。彼は、Middleton が Ishmael の砦に侵入し家財道具を破壊したと Middleton を責める。そして Ishmael は、自分も Middleton も過ちを犯したのでおあいこだと言うのである。誘拐は家財道具を破壊するよりはるかに重大な犯罪なのだが、Ishmael は過ちの軽重を考えもせず自分も Middleton も過ちを犯したという事実だけを強調する。Ishmael は、復讐法を用いて重大な犯罪行為を隠蔽しようとするのである。Ishmael に家財道具を破壊したと非難された Middleton は、“But what I did, was to liberate —” (345) と反論する。彼は、自分の行為が法の認める正当防衛の範囲を逸脱していないと主張する。Middleton は、法を尊重している。そのうえで、彼は、犯した過ちに少しづつ気づき始めた Ishmael に次のように忠告する。

Smother not your good intentions, and remember if you contemplate violence to any among us, that the arm of that law you affect to despise reaches far, and that though its movements are sometimes slow, they are not the less certain. (344)

Middleton は、法は現実の問題を解決するには遅いときもあるが必ず現実に追い付くので法に従うように Ishmael に忠告している。Middleton は、犯罪行為を隠蔽するために法を用いるべきではなく正義を実現するために用いられるべきであると Ishmael に勧めているのである。彼は、法を尊重しているのである。Middleton の民主主義の特徴は、彼の違法精神に見られるようにアメリカ合衆国憲法を守ることなのである。

Middleton を担い手とした民主主義の特徴は、Ishmael Bush 一家に囚われている Inez を解放することを通して具体的に示されている。Ishmael Bush は、Ellen が命令に従わなかったことを非難すると同時に彼女を弁護して父に反抗的な態度をとる Asa を威圧する。

実際、彼は、“strength of the elephant”(12)を背景に父親の権威をちらつかせて“*As, you ar’ a man, as you have often boasted; but, remember I am your Father, and your better.*”(90)と言う。彼は、子供たちに父親の権威や命令に絶対的に服従することを求めている。Ishmael Bush は、家父長的権威主義の体現者なのである。⁽¹⁴⁾ Ishmael Bush 一家は、農耕社会を象徴的に示しているだけでなく白人男性を中心にした家父長権威主義の支配体制が確立されている社会をも象徴的に表わしている。Middleton は、Inez を象徴的な意味を与えられた Ishmael Bush 一家から解放しようとするのである。Inez の解放は、Inez 個人の解放を意味しているだけではない。彼女の解放は、象徴的な意味をも与えられている。Inez は、“*the former heroes and grandees of old and of New Spain*”(157)を多く輩出したスペインの名門の家柄の娘である。そのうえ彼女は、Middleton を“*the humble instrument of bringing him into the flock of the faithful*”(160)と述べられているようにカトリックに改宗させたいと願っている熱心なカトリックの信者なのである。彼女は、スペイン系のカトリックの信者なのである。そのことは、彼女が WASP といわれるアメリカの主流に属していないことを示している。Inez は、人種的・民族的・宗教的・性的な違いから謂われ無い差別を受け権利を奪われ苦しんでいる人々を象徴的に表わしているのである。Middleton が Ishmael Bush 一家から Inez を解放することは、白人男性を中心に据えた家父長権威主義の社会制度のもとで権利を奪われ苦しんでいる人々の権利を回復することなのである。Middleton は、権利を奪われている人々の権利を回復するために法を適用しようとするのである。Middleton を担い手とした民主主義は、人種的・民族的・宗教的・性的な理由から権利を奪われ苦しんでいる人々の権利を回復し社会正義の実現を目的としているのである。Middleton は、民主主義の裾野をできるだけ広げていこうとしているのである。

Middleton の民主主義の特徴は、彼の Ellen と Natty Bumppo に対する姿勢を通してさらに強調されている。Ellen が社会的弱者を象徴する代表として描かれていることは、すでに述べた。このように描かれた Ellen に対して Middleton は、暖かい配慮を示している。Ellen は、Ishmael が Inez を誘拐したことを謝罪して“*I hope you will forget and forgive the wrongs you have received from my uncle—*”(173)と言う。Ellen の謝罪を聞くと、Middleton は Inez に次のように言う。

How is this!...did you not say, Inez, that this excellent young woman was to accompany us, and to live with us, for the remainder of her life, or, at least, until she found some more agreeable residence for herself. (173)

Middleton は、Ellen が自立できるまで引き取って面倒を見るというのである。彼は、Ellen に代表されている社会的弱者の自立を手助けする姿勢を持っているのである。Middleton は、Ellen だけでなく Natty Bumppo にも暖かい配慮を示している。Natty Bumppo は、身寄りの無い老毘師である。彼も社会的弱者なのである。Middleton は、Natty Bumppo の世話をしようとする。実際、彼は、Natty Bumppo に“*I had not thought of parting...On the contrary, I had hoped and believed that you would have accompanied us below, where, I give you a sacred pledge, nothing shall be wanting to make your days comfortable.*”(370)

と言う。Middleton は、Natty Bumppo が晩年を気持ちよく過ごしてほしいと願っているのである。Ellen と Natty Bumppo は、Inez と対比されている。Inez は、WASP というアメリカの主流に属していない。Inez は、人種的・民族的・宗教的・性的な違いから差別を受け権利を奪われ苦しんでいる人々を象徴的に表わしていた。Inez と対照的に Ellen と Natty Bumppo は、WASP に属している。しかし彼等は、孤児としての境遇や高齢であるという理由で都市化し世俗化した社会の中では無視されがちなのである。Middleton の Ellen と Natty Bumppo に対する姿勢は、アメリカ社会の主流に属しているとしても社会の中で忘れられがちな社会的弱者にも目配りを行っていることを示している。Middleton は、経済的に豊かになった社会の中で経済的な格差を解消できないとしても経済的な格差から蒙る不利益をできるだけ軽減しようとしている。Middleton を担い手とした民主主義は、社会的弱者を切り捨てず彼等の幸福のために努力する福祉社会を目指しているのである。

Middleton を担い手とした民主主義の特徴は、彼の自然に対する姿勢を通してさらに強調されている。第33章の Natty Bumppo と Middleton の対話に耳を傾けてみる。物語の第33章は、Natty Bumppo と Middleton の別れの場面である。Middleton は、Ishmael Bush 一家に誘拐され囚われていた妻の Inez を解放し連れてきた小犬とともに Louisiana に戻ろうとする。Natty Bumppo は、最晩年を血を分けた小犬と楽しんできた Hector がひとりて死を迎えなければならない孤独を察知して Middleton にお願いをする。Natty Bumppo は、Middleton に次のように頼む。

Here is Hector, a good and faithful pup, that has long outlived the time of a dog, and like his master he looks more to comfort now than to any deeds in running. But the creatur' has his feelings as well as a christian. He has consorted latterly with his kinsman, there, in such a sort, as to find great pleasure in his company, and, I will acknowledge that it touches my feeling a little to part the pair so soon. If you will set a value on your hound, I will endeavor to send it to you in the spring, more especially should them same traps come safe to hand, or if you dislike parting with the animals, altogether, I will just ask you for his loan through the winter. I think I can see my pup will not last beyond that time, for I have judgment in these matters, since many is the friend, both hound and red-skin, that I have seen depart in my day, though the Lord has not yet seen fit to order his angels to sound forth my name. (373-374)

Natty Bumppo は、死を目前にした Hector の最晩年が楽しいものであればそれだけ一層小犬との別れが辛かろうと感じ取るのだ。彼は、人間と同じ言葉を話さないとしても喜怒哀楽を感じ取る能力を持つ Hector が耐えなければならない孤独感を読み取り、孤独から来る苦痛を軽減し豊かに天寿を全できるように配慮するのである。Natty Bumppo の願を聞いた Middleton は、彼の Hector に寄せる思いやりの深さに感動して “take him, take him... Take all, or any thing!” (374) と言って小犬を渡す。Middleton の暖かい配慮によって Hector は、死ぬまで孤独を味わわずに過ごすのである。Hector は、Natty Bumppo の飼い犬であるだけでなく象徴的な意味も与えられている。Hector は、人間を除いた神の被造

物全体を象徴的に示す代表なのである。⁽¹⁵⁾ 象徴性を与えられている Hector に対する Middleton の姿勢は、動物や植物を含む自然に対する彼の姿勢を表わしている。Hector に暖かい配慮を示す Middleton は、人間も自然も神の被造物として平等の存在であることを自覚している。彼は、神の前での平等に基づいた正義を人間に限定するのではなく自然界にまで拡大しているのである。彼は、自然保護に心を砕くのである。Middleton は、都市社会の再生には社会の中に存在する経済的格差を軽減し政治的・社会的差別を取り除くだけでなく都市社会を取り巻いている自然環境との安定的で健全な関係を維持する必要性を強く感じているのである。彼は、都市社会の拡大・進展によって消滅の危機に晒されている自然の権利をも認めることで自然の大量破壊と大量消費を防ぎ都市社会と自然環境のバランスを保とうとする。Middleton の民主主義は、都市社会における人間関係だけでなく人間と自然の共生をも視野にいれた持続可能な発展を目指しているのである。

Middleton を担い手とした民主主義は、アメリカ合衆国憲法に則り Inez や Ellen そして Natty Bumppo に具現された社会的弱者の権利を回復し誰もが人間らしく生きていける社会を作ることを目指している。そればかりか、彼の民主主義は、自然と人間の調和のとれた発展をも目指している。このような社会の構築を目指している Middleton の民主主義を支えるエートスは、どのようなものなのであろうか。

Middleton の民主主義を支えるエートスは、彼の光と闇に対する姿勢に見られる。彼の光と闇に対する姿勢は、Middleton のミドルネームに示されている。彼のミドルネーム Uncas は、*The Last of the Mohicans* に登場したインディアンに因んで付けられている。*The Last of the Mohicans* の Uncas は、若く勇敢な Mohicans 族のインディアンとして描かれているばかりでない。彼は、象徴的な意味を与えられた人物としても描かれている。Uncas は、メシヤとして描かれている。彼のメシヤ性は、死を通して示されている。彼の死は、悪の呪縛から人間を解放し魂の負った傷を癒し人間性を回復させる象徴的な意味を与えられている。Uncas の死は、人々の罪をあがなう贖罪死を象徴的に表わしているのである。⁽¹⁶⁾ Middleton は、メシヤ Uncas の名前が付けられている。彼は、Uncas をメシヤと信じる信仰に支えられているのである。このような Middleton は、光の中に神の臨在を読み取ることができるのである。光に対する Middleton の姿勢は、第10章の野牛の肉を食べる場面を通してさらに強調されている。Paul は、Middleton に “...if your stomach has an empty corner, and you know how to relish a genuine dew drop when it falls into your very mouth, there lies the exact morsel to put into it. Try it, stranger.” (109) と言って肉を食べることを勧める。Middleton は、“I will...gladly profit by your invitation; for I have fasted since the rising of yesterday's sun, and I know too well the merits of bison's hump, to reject the food.” (109) と招きに応じる。彼は、肉を一目見ただけで肉の種類と部位を言い当てる。そのうえ彼は、Natty Bumppo や Paul と違って “Buffaloe” (76) と言う通俗的な言い方をしないで博物学者 Obed の勧める “Bison” (77) という正式な名称を用いている。Middleton は、一目見ただけで対象の本質を直観的に把握できる鋭い洞察力と正確に表わす表現力を備えている。このような Middleton は、肉を食することに込められている象徴

的な意味を理解できるのである。彼は、肉を食べることを野牛の皮の背後に隠れて死を克服した復活のメシヤ Hard-Heart の恵に与ることと認識するのである。⁽¹⁷⁾ 肉を食べることの象徴的な意味を認識できる Middleton は、光の象徴性を理解できるのである。Middleton の民主主義を支えるエートスは、メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活を信じる信仰に示された福音主義的キリスト教信仰なのである。

Middleton の民主主義を支えるエートスは、Natty Bumppo に示されたエートスを継承しているのである。Middleton は、Natty Bumppo 本人を目の前にしているとは知らずに祖父 Duncan Heyward から聞かされていた Natty Bumppo に関する話を次のように語る。

The man, I speak of, was of great simplicity of mind, but of sterling worth. Unlike most of those who live a border life, he united the better, instead of the worst qualities of the two people. He was a man, endowed with the choicest and perhaps rarest gift of nature, that of distinguishing, good from evil, his virtues were those of simplicity, because such were the fruits of his habits, as were, indeed, his very prejudices. In courage, he was the equal of his red associates, in warlike skill, being better instructed, their superior. In short, he was a noble shoot from the stock of human nature, which never could attain its proper elevation and importance, for no other reason, than because it grew in the forest: such, old hunter, were the very words of my grandfather, when speaking of the man, you imagine so worthless.”(114)

Middleton は、祖父 Duncan Heyward が Natty Bumppo を倫理的な善・悪を識別できる類まれな洞察力を持ち合わせている人物として高く評価し尊敬していたと述べている。祖父が尊敬していた証拠に Middleton は、“there are already three, among us, who have also names derived from that scout.”(115) と言う。Middleton の一族の中に Natty Bumppo の名前をつけられているものがいるのである。死んだものと長い間思っていた Natty Bumppo が生きていて目の前にいるだけでなく Middleton の祖父を助けた本人であると告白するのを聞いた Middleton は、直ちに“I do not hesitate to believe, I only marvel that it should be so.”(116) という。彼は、Natty Bumppo を倫理的善・悪を識別できる洞察力を与えられている人として尊敬し彼の言うことを信じるのである。Middleton は、Natty Bumppo に与えられている象徴性を理解できるのである。彼は、Natty Bumppo をメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者にして聖餐式の執行者として理解する。⁽¹⁸⁾ Middleton は、Natty Bumppo と同じ信仰に支えられているのである。彼は、Chingachgook と Uncas の係わりに描かれた愛する独り子を犠牲にしてまで人間を悪より救い出だそうとする神の愛、Hard-Heart の復活にみられる死からでさえ生を造り出す神の豊かな創造力そして終末の接近を信じている。そして彼は、荒野であった人々と暖かい交わりを持ち老犬の Hector に対しても暖かい配慮を示すのである。彼は、神や人間そして自然との交わりを深める宗教的な人間なのである。Middleton を担い手とした民主主義は、社会の発展段階の初期に Natty Bumppo を通して示されたエートスを世俗化した都市社会に新しく適用しようとしているのである。

Middleton の民主主義を支えるエートスは、Jefferson の民主主義を支えるエートスと対比されている。Middleton は、Jefferson 大統領に砲兵大尉に任命されている。Middleton を砲兵大尉に任命した Jefferson は、理神論者であったといわれている。理神論は、合理主義を背景にして生まれ啓示宗教としてのキリスト教信仰に対して批判的であったといわれている。ところが Middleton は、メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活に神の啓示を読み取っているのである。彼を支える信仰は、合理主義的・博愛主義的キリスト教信仰を脱脚し福音主義のキリスト教信仰に立脚している。Middleton の民主主義は、福音主義に立脚した彼のキリスト教信仰を社会的に実践する行為なのである。Middleton は、民主主義とキリスト教を結び付けて都市社会を再生する手段としているのである。

批評家たちは、これまで *The Prairie* をアメリカ史の westward expansion の一コマ活写した物語と解釈してきた。たとえば、Henry Nash Smith は、Natty Bumppo について“...the character of Leatherstocking is by far the most important symbol of the national experience of adventure across the continent.”と述べている。⁽¹⁹⁾ 彼は、*The Prairie* をフロンティア小説の典型とみている。しかし *The Prairie* は、急激な都市化と世俗化が起きた都市社会を物語の舞台としている。Cooper が描く都市社会は、一方では自然環境を犠牲にし経済的な発展を遂げ消費文化が浸透している華やかな社会である。しかし都市社会は、他方でキリスト教信仰への関心が薄れその結果犯罪が起き人間関係が希薄になっている暗い社会でもある。Duncan Uncas Middleton は、暗く殺伐とした都市社会を再生させる任務を帯びて登場する。彼は、都市社会を再生させるため民主主義を手段として用いるのである。彼の民主主義を支えるエートスは、キリスト教信仰である。こうして Middleton は、都市社会を再生しようとするのである。こうしてみると Cooper の *The Prairie* は、フロンティア小説の典型ではなく都市社会の抱える問題を真正面から取り上げた小説と解釈されるべきであろう。

Cooper は、*The Prairie* を二つの時間の枠組みで構成している。一つは、キリスト教の救済史の枠組みである。*The Prairie* では救済史の枠組みの中でもメシヤ Hard-Heart の復活から終末に至る過程が強調されている。⁽²⁰⁾ この救済史の枠組みの中に Cooper は、もう一つの時間の枠組みを埋め込んでいる。それは、アメリカ史の枠組みである。Natty Bumppo の登場から Obed Battius の登場までは、社会進化の過程を通して示されたアメリカの歴史である。救済史の枠組みの中で捉え直したアメリカの歴史は、急激な都市化と世俗化によって犯罪が起きたり人間関係が希薄になっている殺風景な社会を出現させる歴史なのである。急激な都市化と世俗化の結果としてアメリカ社会は、危機に直面しているのである。救済史とアメリカ史の交り合う社会状況に登場するするのが、Duncan Uncas Middleton である。彼は、民主主義とキリスト教を通して神と人に仕えるだけでなく都市社会を再生させる使命を帯びているのである。彼は、都市社会の改革者なのである。Cooper が Duncan Uncas Middleton を描いたのは、都市社会の再生こそがアメリカの解決を迫られている緊急の課題であることを示したかったからであろう。

注

- (1) 拙論「Duncan Uncas Middleton の救い」大阪女学院短期大学紀要第31号 (2001) 125-140
- (2) James Fenimore Cooper *The Prairie; A Tale* (Albany: State University of New York Press, 1985)
本論文中の作品からの引用は、全てこの版による。なお、()ないの数字は、そのページを示す。
- (3) Donald A. Ringe *The Pictorial Mode: Space and Time in the Art of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 109
- (4) 拙論「Natty Bumppo と Hector: 人間と自然の新しい関係」大阪女学院短期大学紀要第29号 (1999) 69-83
- (5) *The Last of the Mohicans* における Chingachgook, Uncas, Natty Bumppo と彼等の関係に関しては、拙論「Cora Munro の死の意味」大阪女学院短期大学紀要第24・25号 (1995) 77-87、拙論「Chingachgook と Magua—クーバーの神義論」大阪女学院短期大学紀要第27号 (1997) 53-62、拙論「Glenn's の彼方へ—Cooper の救い—」大阪女学院短期大学紀要第24・25号 (1995) 109-120で論じている。
- (6) 拙論「偽審判者としての Ishmael Bush」大阪女学院短期大学紀要第30号 (2000) 105-116
- (7) 拙論「偽女性解放者としての Paul Hover」大阪女学院短期大学紀要第30号 (2000) 117-128
- (8) 拙論「偽女性解放者としての Paul Hover」大阪女学院短期大学紀要第30号 (2000) 117-128
- (9) Orm Overland *The making and meaning of an American classic James Fenimore Cooper's The Prairie* (New York: Humanities Press, 1973) 156
- (10) William P. Kelly *Plotting America's Past: Fenimore Cooper and the Leatherstocking Tales* (Carbondale: Southern Illinois University Press, 1983)106。多くの批評家たちは、Cooper が *The Prairie* の中に社会進化論を持ち込んでいることを指摘している。しかし彼等は、社会進化の各段階とキリスト教信仰との係わりをまったく論じていない。Henry Nash Smith *Virgin Land: The American West As Symbol and Myth* (New York: Vintage Books, 1950) 254-260, Henry Nash Smith Introduction to *The Prairie* by James Fenimore Cooper (San Francisco: Rinehard Press, 1950) xii-xix, Edwin Fussell *Frontier: American Literature and the American West* (Princeton: Princeton University Press, 1965) 46-47, William Wasserstrom "Cooper, Freud and The Origin of Culture" in *Leatherstocking and the Critics* ed. by Warren S. Walker (Chicago: Scott, Foresman and Company, 1965) 105
- (11) 拙論「偽キリストとしての Obed Battius」大阪女学院短期大学紀要第31号 (2001) 109-124
- (12) Wayne Fields "Beyond Definition: A Reading of *The Prairie*" in *James Fenimore Cooper: A Collection of Critical Essays* ed.by Wayne Fields (Englewood Cliffs: A Spectrum Book, 1979) 96
- (13) 高木八尺、末延三次、宮沢俊義編「人権宣言集」(東京:岩波書店、1978) 114
- (14) 拙論「偽審判者としての Ishmael Bush」大阪女学院短期大学紀要第30号 (2000) 105-116
- (15) 拙論「Natty Bumppo と Hector: 人間と自然の新しい関係」大阪女学院短期大学紀要第29号 (1999) 69-83
- (16) 拙論「時間の中心 Uncas—クーバーの描いたメシヤ像—」大阪女学院短期大学紀要第29号 (1988) 87-103
- (17) 拙論「Duncan Uncas Middleton の救い」大阪女学院短期大学紀要第31号 (2001) 125-140
- (18) 拙論「Duncan Uncas Middleton の救い」大阪女学院短期大学紀要第31号 (2001) 125-140
- (19) Henry Nash Smith *Virgin Land: The American West as Symbol and Myth* (New York: Vintage Books, 1950) 66, Edwin Fussell *Frontier: American Literature and the American West* (Princeton: Princeton University Press, 1965) 45-46, William H. Goetzmann "James Fenimore Cooper: *The Prairie*" in *Landmarks of American Writing* ed. by Henning Cohen (Voice of America Forum Series, 1979) 77, Gordon Brotherston "*The Prairie* and Cooper's Invention of the West" in *James Fenimore Cooper: New Critical Essays* ed. by Robert Clark (Totowa: Barnes and Noble Books, 1985) 167, Warren S. Walker *James Fenimore Cooper: An Introduction and Interpretation* (New York; Holt, Rinehart and Winston, Inc., 1962) 58-62, John P. McWilliams, Jr., *Political Justice in*

- A Republic: James Fenimore Cooper's America* (Berkeley: University of California Press, 1972) 259, Robert Emmet Long *James Fenimore Cooper* (New York: A Frederick Ungar Book, 1990) 63-74, Donald A. Ringe *James Fenimore Cooper* (New Haven: College and University Press, 1962) 42, Wayne Fields "Beyond Definition: A Reading of *The Prairie*" in *James Fenimore Cooper: A Collection of Critical Essay* ed. by Wayne Fields (Englewood Cliffs: A Spectrum Book, 1979) 93
- (20) 拙論「荒野における聖餐式」大阪女学院短期大学紀要第28号(1998) 115-127